

2021年3月11日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

ポジションペーパーの取りまとめについて

1. 議論の経緯

(ア) 「学術情報流通推進委員会第1期（2019～2021年度）の基本方針」から抜粋

(1)国内ステークホルダーとの協調

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」、JUSTICE, JPCOARはもとより、学術コミュニティのステークホルダーを広く結集して、学術情報流通に係る国内外の動向や実態の把握、学術情報流通のあり方に係る意見交換を行います。

(イ) 「2020年度学術情報流通推進委員会活動計画」から抜粋

学術情報流通推進委員会を開催し、学術情報流通に係る国内外の情報共有を図る。併せて、国内外の学術情報流通に係る動向や各ステークホルダーのポジションペーパーを基にした、オープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略を取りまとめる。

(ウ) 2020年度第1回委員会における議論

武田委員長と林委員ほか数名の委員で小グループを作り、俯瞰図のリバイズをすることとなった。

(議論の内容：議事要旨から抜粋)

- ・オープンアクセスにおいて、各ステークホルダーの活動が何であるかに加えて、役割・貢献が分かる形でまとめるべきではないか。
- ・この俯瞰図をどう使うのか、「国内外のオープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略提言」につなげるのであれば、オープンアクセスの課題・構造を明確にした上で整理する必要がある。
- ・全体の構造を示す際に、ジャーナルパブリッシング、オープンアクセス、オープンサイエンス・オープンデータという3つの課題の構図を明確に分けてまとめる必要がある。
- ・時間軸を加えて、過去から現在、未来へと何枚かの絵に分けることも考慮できるのではないか。
- ・OAに関する知識共有を推進し、大学内で執行部に対して説明する際に活用できる資料として、また、研究者の視点も考慮されているとよいのではないか。

(エ) 2020年度第2回委員会までの作業

武田委員長と林委員にて、「戦略の取りまとめ」の前段階として、現在に至るまでの学術情報流通の形態の変遷について整理し、各ステークホルダーのマッピングと課題整理に向けた取りまとめ案を作成した。

2. 本委員会での議論

- (ア) 第1期最終年度の2021年度末までに「戦略の取りまとめ」を完成させることを目標に、当該文書の目的・方向性について明確にする。
- (イ) 2021年度第1回委員会にて、案を提示し、具体的な議論につなげられるよう、当該文書に盛り込むべき要素・骨子について検討する。

以上